

＜ もくじ ＞	
1. 2024年度定時総会・第23回大会開催のお知らせ（再掲）	1
2. 研究会からのお知らせ	2
3. 研究会からの概要報告	3
4. 事務局からのお知らせとお願い	6

1. 2024年度定時総会・第23回大会開催のお知らせ（再掲）

2024年度の総会と第23回学会大会は、6月22日に市川の千葉商科大学で開催されます。今年度の大会では、シニア社会学会の設立当時の目的を見定めながらも、人口減少・少子高齢化、デジタル化、AI技術の進展などの急激な時代の変化を背景として、具体的に学会員が地域で取り組んでいる活動に焦点を当てながら、多様な人々のつながりのあり方を「共生型コミュニティ」の概念を軸に語り合うことを狙いとしています。久しぶりに会場で皆様とともに議論ができる機会になることを楽しみにしております。懇親会もありますので、ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 1) 開催日：2024年6月22日（土）
- 2) 時 間：総会10：30～12：00 大会13：00～16：40
- 3) 会 場：千葉商科大学市川キャンパス 7号館711教室（オンライン併用）

《第1部》 一般社団法人シニア社会学会総会（会員のみ）

- 2024年度定時総会・臨時理事会10：30～12：00

《第Ⅱ部》 一般社団法人シニア社会学会第23回大会 13：00～16：40

◆大会テーマ：「だれ一人取り残さない社会の実現に向けて：共生型コミュニティの創出」

- ・総合司会：八巻睦子（運営委員）
- ・大会挨拶：袖井孝子（会長）

◆シンポジウム

- ・基調講演タイトル：「共生型コミュニティ創出のための媒介組織の役割と実践」
手塚 明美（認定NPO法人 藤沢市民活動推進機構 理事長 一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ代表理事）

・パネルディスカッション：

「だれ一人取り残さない社会の実現に向けて：共生型コミュニティの創出」

司会：長田攻一（シンポジウムの趣旨説明とシンポジスト紹介）

- ★ 吉竹 弘行：福島における地元学生他との都市養蜂事業による地域活性化 一福島 S-HART 事業一（会員、理事、千葉商科大学学長付教授）
- ★ 齊藤 紀子：行政・企業・無償ボランティアによる対応からこぼれ落ちたニーズに応える有償ボランティア（会員、千葉商科大学准教授）
- ★ 青山 陽子：社会の期待の外側に居場所をつくる：B型事業所におけるASD（自閉スペクトラム症）者支援の事例から」（会員、3B 実用芸術研究所施設長）

※ コメンテーター：手塚 明美

- ・大会閉会挨拶：濱口晴彦（副会長）

- ・懇親交流会：17：00～18：30 千葉商科大学 The University Dining

- ◆大会参加費：1,000円（支払いはPeatix、振り込み、当日会場） 学生無料
- ◆懇親交流会：4,000円（事前受付終了。当日受付で相談可。支払いは当日会場で）

※ 総会・大会会場は、市川駅からバス10分、または京成本線国府台駅から徒歩15分
※ 詳細はすでにメールや郵送でお知らせしておりますが、ホームページでご確認ください。

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第69回「災害と地域社会」研究会開催案内

- 1) 日 時：2024年6月19日（水）18:00~20:00
 - 2) 会 場：早稲田大学 26号館 1102
 - 3) 開催形式：会議室対面とZoomのハイフレックス開催
 - 4) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」
共 催：シニア社会学会「災害と地域社会」研究会
 - 5) 報告者：所澤新一郎氏（共同通信社 編集局気象・災害取材チーム長）
 - 6) テーマ：「能登半島地震の現状と教訓」（仮）
- ※ 申し込み、お問合せは、長田まで（pfb00052@nifty.com）

(2) 第45回「YNS やまぶき任意サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年6月22日（土）18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木眞澄、及びその他YNS やまぶき任意後見、アワーズ
- 4) テーマ：認知症とともに生きる 「信託」と「任意後見」のことを考えていきます。

びしょうざ
劇団 「B笑座」

認知症らしさを体験することで新たな発見が生まれます。人形劇、寸劇、その他
劇団員募集しています。Zoomの参加もできます。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄（mme_masumi@yahoo.co.jp）迄お願い致します。

(3) 第161回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年6月26日（水）18:00~20:00
- 2) 報告者：宮崎進一（一般社団法人 全国地域生活支援機構・代表理事）
- 3) テーマ：「民間企業（ウエルシア薬局）が推進する地域社会における多主体協働活動の実践～地域
包括ケアシステム・地域共生社会における地域活動の位置づけ」
- 4) Zoomでいたしますので、参加を希望される方は、阿部（fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp）
にご連絡ください。資料をお送りいたします。

※ ご質問がありましたら、阿部（旧姓佐藤）まで 090-4436-6853

(4) 第98回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年6月27日（木）15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：①発表：薄井 滋一『コミュニティ学のススメ』を読み解く
②討議—コミュニティの「シニアの役割について」
③討議—シニア社会学会・大会テーマ「共生型コミュニティの創出」について
- 4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願い致します。

(5) 第53回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年6月28日（金）17:30~19:30

- 2) 場 所：Zoom で開催
 - 3) テーマ：「生涯現役」とは？「生涯現役社会」とは？
 - 4) 報告者：立花一元さん（当学会会員 ライフプロデュース研究会メンバー）
 - ※ ご連絡ご質問は、中村昌子までお願いいたします。（nakamurayoshiko6@gmail.com）
- 皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(6) 第52回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2024年7月3日（水）15：00～17：00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 概 要：「スマホを利用したいと思う時、困ったこと」をテーマに進める
- ※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

3. 研究会からの概要報告

(1) 第160回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2024年5月22日（水）18：00～20：00
- 2) 報告者：西下彰俊（東京経済大学教授）
- 3) テーマ：「スウェーデンの高齢者ケア・再考—その光と影を探る」
- 4) 参加者：20名

スウェーデンは福祉先進国として語られることが多い。福祉国家論としては、エスピン・アンデルセンの分類が長年踏襲され、北欧と一括りにされ論じられてきた。また中範囲の具体的なスウェーデン介護研究も存在するが、スウェーデンモデルとして長所だけが恣意的に切り取られて論じられてきた。

本報告では、スウェーデンの介護政策の長所だけでなく問題点も指摘し、複眼的視点から論じる。まず長所(光)として4点指摘した。①2007年から毎年、全国290のコミュニティ（市レベルの基礎自治体）の介護サービス情報を網羅した情報が毎年公表され、また「エルドレガイダン」という在宅サービス、介護施設サービスのデータベースが創設され、サービスの現状や満足度を数値で比較検討できる点、②2012年の社会サービス法改正で、健康な配偶者が要介護者と同じ介護施設の部屋で同居できる「パーボギャランティ(夫婦・カップル同居保障)」制度が創設された点、③介護サービス利用時に最低生活費が保障される制度があり、2024年現在では単身高齢者で約8.7万円（夫婦で約14.3万円）が手元に残るよう自己負担額が設定される点、④夫婦とも要介護であっても、援助判定員の措置によりホームヘルパー等の在宅サービスを利用できる柔軟性がある点を指摘した。

他方、短所(影)として4点指摘する。①1992年から2001年まで、290のコミュニティごとにサービス内容や利用者負担額の設定基準がばらばらで最大6倍の格差があった点、②夏季2か月にわたる介護職員半数不足分を短期間の研修を受けた未経験のピカリエ（アルバイト代替要員）で補わなければならず介護の質が懸念される点、③介護の付いた特別住宅への入所がコミュニティの援助判定員の措置により厳しく制限され、特に2006年に「特別費用」制度発足以降、入所がより困難になった点、在宅ケア重視の流れの中で特別住宅数が減少し入所できる可能性が低下している点、④競争入札を促進する穏健党系コミュニティでは、提供サービスの民間委託化が進行し、採択事業者が人件費を抑制し結果として介護放棄という虐待が生じやすい点を指摘した。

結論としては、スウェーデンもユートピアとは言えないこと、ヨーロッパにモデルを求めるのではなく、「自国独自の介護制度モデル」を国民及び政府が協働し構築することが必要不可欠であると論じた。

（西下彰俊 記）

(2) 第68回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年5月22日（水）18：00～20：00
- 2) 会 場：早稲田大学26号館1101（会議室とZoomのハイフレックス開催）
- 3) 開催主体：早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」（当研究会は共催）

4) 報告者：浅野幸子さん（地域社会と危機管理研究所招聘研究員）

5) テーマ：「令和6年能登半島地震に関する報告」

報告者は、石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザー会議、また、被災者も参加した「のと未来トーク」に参加。現地で女性の被災者や支援者への聞き取り調査や提言書をまとめるグループにも関わる。報告者は「女性の視点を地域の復旧・復興における安心と安全に活かしたい」という思いで臨んだが、県が当初提示した復興プランの骨子と、取り残された被災住民の姿の間に大きなギャップを感じ、悩みながら会議に参加してきた。今回は、会議での経験、現地での聞き取り調査の結果、現時点での県の復興理念、産業・労働、地域コミュニティ、子育て・障害者などについて報告。

県庁アンケート・聞き取り調査、民間団体の聞き取り調査の結果から、地域での暮らしの破壊状況下で、新たな理念の下で復興に向けて多様な形で被災地域に関わる多様な人びとの思い・声を紹介。復興プラン（案）では、能登の自然やブランドを守るという表現がみられる。しかし、女性被災者への調査、報告者自身が被災者から聞いた話から、地元の給与水準は低く、従来の婦人会などの組織も弱体化し、数少ない女性に過度の負担が強いられる状況、また避難者が戻りたくても保育や介護施設の復旧の遅れなどの問題がある。復興プラン（案）はハードの復旧・復興優先で、それ以外の掘り下げが弱いという実情があるという。なお、職員削減や高齢化・過疎化・景気低迷、基礎自治体も地域社会も世帯も災害対応の基礎体力が低下し、被災地域では厳しい避難生活が続いている。今後は、国と県が救援の基礎的な役割をもっと担うべきであり、復興においては、中越地震のときのような官民連携によるきめ細やかな支援が必要。

質疑では、「コミュニティの再生」と「ジェンダー問題」が主として議論された。「コミュニティ」は、移住者や復興に関わる人など構成者の変化の問題や、絆の持続性、生きがいなども含む多様な指標で語る必要があるが、従来の居住者が中心となる形で進められるべきという点が共感を集めた。ジェンダーに関する課題は、家族や従来の地域社会のあり方などと連動しており、日常生活での男女の関係がはらむ諸課題が復興の過程で顕在化する状況もあることから、復興のあり方を考える上での困難さなどが指摘された。

（浅野幸子・長田攻一 記）

（3）第97回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2024年5月23日（木）15：00～18：00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室

3) テーマ：著書『コミュニティ学のススメ』を読み込んで－「コミュニティ」の理解とシニアの役割－

4) 発 表：森嶋 由紀子

発表は、参加者に事前に配付の9ページに亘るレポートにより行われた。レポートは、濱口先生の論文の中から合計48点の文章を引用し、それに関する自らのコメントを述べるという形でまとめられた。コメントは、コミュニティの「シニアの役割について」のテーマに力点を置いたこと。まず、濱口先生は、コミュニティを「ところ定まれば、こころ定まる」「こころ定まれば、ところ定まる」というキーワードに仕上げ、これを共通理解のベースに論文を構築していること。コミュニティの生活様式、しきたり、文化を次の世代に伝承していくのは、シニアの役割といえる。社会（コミュニティ）が不連続統一体として成り立つために、老若世代の橋渡し（関心の共有性につながる）やコミュニティの文化の過去・現在・未来をつなぐこと（時間の流れにつながる）は、コミュニティにおけるシニアの役割として重要である。そして最後にコミュニティをミクロとマクロの視点からとらえることが有効であると述べられた。

森嶋さんの発表を受けて、参加者からコミュニティに対するそれぞれの思いが活発に語られた。最後に総括として、濱口座長は、コミュニティは現実には経済と社会と政治の3者みつどもえの中で機能しているので、コミュニティの社会生活における様態を分析する際にはどの視角から、そこで展開している人間関係を分析するのかを自覚して把握することが大切であるとコメントされた。

（島村健次郎 記）

(4) 第44回「YNS やまぶき任意サポート会」の報告

- 1) 日 時：2024年5月25日(土) 18:30~20:30
- 2) 場 所：品川区東大井5-18-1 きゅりあん 第二グループ活動室
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：認知症とともに生きる

劇団 「^{びしょうざ}B笑座」

「人形劇」も混ぜて、楽しく寸劇を行いました。Zoom 参加者もできます。(鈴木眞澄 記)

(5) 第51回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年5月29日(水) 15:00~16:40
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：「えびすまほ」見学報告、6月以降の研究会活動について
- 4) 概要

①「えびすまほ」見学報告

【八巻さんメモから転記】

見学日：2024年5月25日 13:45~15:00 @恵比寿景丘の家

主催：平岩さん、杉本先生(聖心女子大学現代教養学部教育学科、看護師)

学生：学生6名(1年生4名・3年生2名)

参加者：シニアの方9名。全員女性。ロコミで参加者を集めている。

テーマ：「Google マップを使いこなそう」

【八巻さん】

- ・1年間テーマを決めて到達目標を作っているわけではない。セキュリティなど、専門的知識が必要なことが起こると対応が困難。また、男性が来ても、居づらくなり来なくなってしまった。

【柴田さん】

- ・みんなで集まっておしゃべりを楽しむ会のように思えた。

【メンバー】

- ・両者で受講生の属性の違いは大きい。市川は同じ団体所属(ナルク市川)の方、「えびすまほ」は、地域ロコミで集まった方。集団とコミュニケーションの違いの研究実施も考えられる。

②6月以降の研究会活動について

- ・大テーマとして、「スマホを使えるようにしましょう」はどうか？

例：安田(和)さんのあざみの団地での取り組みに乗ってみる

例：齋田さんの「マンションの管理組合」

「浜管ネット」で起こっていること

↓(課題は、法律・管理・IT・・・多岐にわたっている)

スマホだけ使えればいいという話ではない。

③その他の話題

【三条市図書館：平井さん】

- ・三条市は、電子図書館の導入が進んでおり、高齢者も電子図書館を借りている。司書さんが使い方を教えている。現在、図書館は図書館機能だけではなく複合施設として成り立っている。

(森やす子 記)

(6) 第52回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2024年5月31日(金) 17:30~19:30
- 2) 報告者：中村昌子(当研究会 世話人)
- 3) タイトル：「人生100年時代を生きるリテラシー」の資料から好きなテーマを選んで発表後、自由に全員でディスカッション
- 4) 場 所：Zoomにて開催

今月は、シニア社会のリテラシー研究会メンバーの一人である森嶋由紀子さんの資料「人生100年時代を生きるリテラシー」の内容についてディスカッションしました。

【参加者の意見】

・横尾忠則氏の名言「人は、未完で生まれ、未完で生きて、未完で死んでゆく。それで良いのでは」自分にも相手にも万事「完璧を求めないことが肝心である」。

・過去のロールモデルがあまり役にたかない。最も大きく変わることが求められるのは個人だ。正しい情報収集、自分のやりたいこと、やるべきことに自信を持って取り組むべきだ。

・健康であるときからどのように死を迎えるかについての考えを纏めておいた方が良いと夫の闘病を振り返り思った。

・私が住む岩手の方言「とぜん」（年若いひたひたと押し寄せる寂寥感）、はがあがり（姥捨て山の老人が由来）の姿とは異なり、当事者世代が主体的に生き方、制度を語り、問題点を発信する時代になったことを痛感します。

・海外で流行っているという【ikigai ベン図】では、「What you are good at」（得意なこと）「What you love」（好きなこと）「What the world needs」（社会が必要とすること）「What you can be paid for」（収入を得られること）の4つが円で描かれそれぞれは重なり合っていて、4つの円の重なり合った中央の部分が「生きがい（ikigai）」であることを表している。「ikigai」というワードが、日本人独自の生き方のコンセプトとして解釈されているのは大変興味深い。

・厚生労働省は2040年にはMIC（軽度認知障害）を含めると65歳以上の高齢者の1/3が認知症を発病すると予測。認知症と無縁の人生を送るためにはフレイル対策を心掛けたい。

・自分にとって「生涯現役」とは、年齢に関わりなく、自ら「役割」を持ち活躍し続ける生き方であり、「生涯現役社会」とは、年齢にかかわらず、生涯にわたり、自ら「役割を持ち活躍できる社会」と定義付けたい。（中村昌子 記）

4. 事務局からのお知らせとお願い

<『エイジレスフォーラム』22号送付のお知らせ>

学会に登録してある住所に、『エイジレスフォーラム』22号をゆうメールにてお送りしました。2024年度年会費未納の方には郵便振込用紙が同封されておりますので、6月30日までにお振込みください。（銀行振り込みも可）

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

事務所移転後は、各種ご連絡をeメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・メールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あて連絡は、eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせください。

<2024年7月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News第299号の発行日は、2024年7月17日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、7月12日（金）までに、学会宛のeメール添付にてお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人 シニア社会学会・事務局
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21
ちよだプラットフォームスクウェア1037
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/